

# 令和4年度 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科 (修士課程) 学生募集要項

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、令和4年度音楽芸術研究科入学試験を安全かつ円滑に実施するため、遠隔入試を導入する。(※遠隔入試は受験生が来校せず、郵便・メール・オンライン等を活用し、受験するものである。) 受験生にはパソコン、スマートフォン、タブレット等の通信機器と、インターネット回線に接続できる通信環境を用意することを求める。

◇障がい有等者の入学志願者の事前相談の申し出期限  
令和3年9月2日(木) 午後5時まで

◇出願期間  
令和3年9月17日(金)～9月24日(金)  
※9月24日郵送発信局消印有効

◇試験日程  
令和3年10月23日(土)～10月24日(日)

◇合格発表  
令和3年10月26日(火) 午前10時  
※本学ホームページ掲載

◇入学手続  
令和3年10月28日(木)～11月4日(木)  
※11月4日(木)の郵送発信消印有効

◇入試に関するお知らせ  
令和3年度学生募集要項において予告した舞台芸術専攻および演奏芸術専攻の出願時の研究計画書提出および試験科目に面接を課すことについては、令和5年度入試より導入予定である。

◇入試に関するお知らせ(予告)  
音楽学専攻作曲専修では令和5年度入試より、出願時に研究計画書提出を提出することとする。

◇入学試験に関して、今後何か変更が生じる場合は、大学ホームページで告知する。

令和3年7月

公立大学法人



沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4

電話 098-882-5080

<http://www.okigei.ac.jp>

# 目 次

I	募集人員	1
II	出願資格	1
III	選抜方法	2
IV	試験日程及び試験実施方法	2
V	試験科目、配点と試験曲等	4
VI	受験上の注意	9
VII	出願手続き	9
VIII	合格発表	11
IX	入学手続き	11
X	過去の試験問題の公表	12
XI	入試情報の開示について	12
XII	外国人志願者に対する特別措置	12
■	大学院案内	13
■	大学院研究室一覧	19
■	沖縄県立芸術大学大学院長期履修規程	20
◆	入学願書等提出書類	21～

# 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科 (修士課程)

## I 募集人員

舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修 琉球舞踊組踊専修	4
演奏芸術専攻	声楽専修 ピアノ専修 管弦打楽専修	8
音楽学専攻	音楽学専修 作曲専修	3

## II 出願資格

### 1. 一般選抜

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第1項第4号の規定により文部科学大臣が指定したものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の学校教育法施行規則第155条第1項第5号の規定により文部科学大臣が定めた基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定したものを同号の規定により文部科学大臣が定めた日以後に修了した者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (9) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、22歳に達したもの

※障がいのある者等は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、出願の前にあらかじめ（令和3年9月2日までに）教務学生課に申し出ること。

※上記(9)の適用を受けようとする者は、所定の出願書類（審査料を除く）の他、これまでの学習研究内容の詳細を説明する資料を添えて（令和3年8月27日までに）教務学生課に申し出ること

※長期履修制度を利用する予定のある入学志願者は、あらかじめ（令和3年9月2日まで）教務学生課に申し出ること。

### Ⅲ 選抜方法

- (1) 入学者の選抜にあたっては、専門試験、基礎能力等の選抜試験及び成績証明書、履歴書等の各資料を総合して判定することとし、当初実施を予定していた語学試験は実施しない。  
それに伴い、配点比についてはP.4の表の通りとなる（V-2参照）。
- (2) 舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻の実技試験は録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）の提出により行う。
- (3) 受験生は各自インターネット環境を整えること。
- (4) 音楽学専攻の専門試験（口述試験）、および演奏芸術専攻の基礎能力1（和声）はオンラインにより実施する。

### Ⅳ 試験日程及び試験実施方法

専攻／専修		～10月15日(金)	10月18日(月)～20日(水)	10月23日(土)	10月24日(日)
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	実技試験 (録画物の提出)	基礎能力 (解答データの送付)		
	琉球舞踊組踊専修				
演奏芸術専攻	声楽専修	実技試験 (録画物の提出)	基礎能力2 (解答データの送付)		基礎能力1 (オンライン) 9:00～
	ピアノ専修				
	管弦打楽専修				
音楽学専攻	音楽学専修		基礎能力 (解答データの送付)	口述試験 (オンライン) 10:30～	
	作曲専修				

上記の試験時間は予定であり、志願者数によっては変更することもある。

#### 1 メールアドレスの確認を行います。

全ての受験生は学生募集要項入学願書の現住所欄の空白部分にメールアドレスを記入すること。

#### 2 舞台芸術専攻及び演奏芸術専攻の専門試験「実技試験」は録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）の提出により実施します。

実技演奏の録画媒体（DVD、USBメモリ、SDカードのいずれか）を、本学事務局宛に氏名、住所、連絡先（電話番号）を明記の上、「令和4年度音楽芸術研究科入学試験実技録画物在中」と明記して郵送すること。10月15日（金）の消印有効とする。

#### (1) 実技試験の方法について

以下に指定する方法で課題の演奏録画を提出すること。なお、**演奏環境、画質等は評価に影響しない。**

注意事項は各専修の「試験曲等」欄の記載に従うこと。

(2) 録画方法、提出方法

- ア 記録メディアは、以下の媒体のいずれかとする。  
DVD、USBメモリ、SDカード(含microSDカード)
- イ SD・USBメモリのフォーマット形式は以下のいずれかとする。  
NTFS FAT32 exFAT
- ウ 動画ファイル形式は、以下の形式とする。  
MOV MP4 AVI WMV MPG
- エ DVDの場合は、ファイナライズ処理を必ず行い、他の機器で再生可能かどうかを確認すること。
- オ 録画の初めに顔を映すこと。名前等は言わないこと。
- カ ファイル名に「受験する専修名と氏名」を記載すること。
- キ 記録メディア本体もしくはケースに、「受験する専修名と氏名」を記載すること。また、必ずコピーを手元にとっておくこと。
- ク 提出された記録メディアは返却しない。  
郵送中に破損しないように梱包すること。

**3 演奏芸術専攻の基礎能力試験「和声」及び音楽学専攻の専門試験「口述試験」をオンラインにて実施します。**

演奏芸術専攻及び音楽学専攻の受験生は各自、オンライン面接が可能なインターネット環境を整えて下さい。また、以下の点に留意して準備をお願いします。

- (1) 受験の際に同室に他の人が入らないようにして下さい。
- (2) **事前にシステムのチェック日を設けます。**詳細は解答用紙送付時に連絡します。
- (3) 「和声」については、出願後に本学から解答用五線紙を送付します。

**4 基礎能力試験のうち、「琉球芸能史」、「西洋音楽史」及び「音楽・芸能の歴史と理論」は事前に入試問題を公開しますので、以下のとおり解答を提出してください。**

- (1) 令和3年10月18日(月)午前9時に受験者に通知します。解答用紙と共に送付するURLとパスワードを使用して閲覧すること。
- (2) 解答は出願後に本学から送付する解答用紙へ鉛筆で筆記し、携帯電話等で写真撮影の上、令和3年10月20日(水)17時までに解答用紙送付時に告知するアドレスに送付すること。

## V 試験科目、配点と試験曲等

### V-1 試験科目

専攻/専修		専門試験	基礎能力
舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	実技試験 (録画物の提出)	琉球芸能史 (解答データの送付)
	琉球舞踊組踊専修		
演奏芸術専攻	声楽専修		1 和声 (オンライン試験及び 解答データの送付)
	ピアノ専修		
	管弦打楽専修		
音楽学専攻	音楽学専修		口述試験 (オンライン)
	作曲専修	口述試験 (オンライン)	西洋音楽史 (解答データの送付)

\*1 西洋音楽・日本音楽・民族音楽・民族芸能の4領域から選択して解答する。

### V-2 配点と試験曲

専攻	専修	総点	配点比	
			専門試験	基礎能力
舞台芸術	琉球古典音楽	100	80	20
	琉球舞踊組踊	100		
演奏芸術	声楽	100		
	ピアノ	100		
	管弦打楽	100		
音楽学	音楽学	100		
	作曲	100	80	20

舞台芸術専攻

琉球古典音楽専修

試 験 曲 等

歌三線、琉球箏曲のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。  
録画の曲順は番号の順とする。

【歌三線】

1. 昔節「作田節」「ちゃんな節」「しよどん節」より1曲を選曲
2. 二揚独唱曲「散山節」「仲風節」「述懐節」より1曲を選曲
3. 地謡「総掛」「花風」より1題を選択

【琉球箏曲】

1. 「江戸菅攪・拍子菅攪・佐武也菅攪(三段～五段)」「六段菅攪」「七段菅攪」より1題を選曲
2. 昔節「ちゃんな節」「首里節」より1曲を選曲
3. 地謡「総掛」「花風」より1題を選択

【録画撮影に関する特記事項】

- \*試験曲は暗譜で独唱し、全曲を通して録画すること。
- \*3の地謡は、演奏のみとする（立方は伴わない）。歌持ちの回数は2～3回とする。
- \*一切の編集は行わないこと。途中で録画が中断しないこと。  
編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- \*カメラアングルについて  
・録画は正座で演奏し、全身が映るように撮影すること。

琉球舞踊組踊専修

試 験 曲 等

琉球舞踊、組踊のいずれかを選択し、それぞれ指定された科目を受験する。  
録画の曲順は番号の順とする。

【琉球舞踊】

1. 女踊「伊野波節」「諸屯」「作田」の3演目
2. 二才踊「ぜい」「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択
3. 雑踊「むんじゅる」「花風」より1演目を選択

【組踊】

1. 組踊「執心鐘入」「二童敵討」「女物狂」(各役の唱え)の3演目とする。なお、試験の配役(唱えの台本)については、受験票と併せて送付する。
2. 女踊「伊野波節」「諸屯」より1演目を選択
3. 二才踊「前の浜」「高平良万才」より1演目を選択

【録画撮影に関する特記事項】

- \*試験曲は、1演目ごとに録画すること。
- \*地謡はCDまたは生演奏とする。(生演奏の場合、三線2名、太鼓1名とする)。
- \*稽古着(無地系の長着)を着用。必要な小道具を使用すること。
- \*組踊の唱えは、送付された台本を見ながら、正座して唱える。(所作無し)
- \*一切の編集は行わないこと。編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- \*カメラアングルについて、正面から出羽・中踊・入羽を含め、全身が画面に映るように撮影すること。

## 演奏芸術専攻

### 声楽専修

### 試 験 曲 等

- A. W. A. Mozart、J. Haydnの声楽曲 1曲（オペラ、宗教曲、歌曲のいずれかより1曲）  
B. アリア 2曲（ただし、うち1曲は宗教曲のアリアも可）  
C. 歌曲 1曲

- \*曲目はそれぞれ異なる曲を計4曲とし、自由選択とする。
- \*A・B・C 4曲の合計時間は10～15分とする（曲間を含む）。
- \*同一作曲家の作品は1曲のみとする。
- \*伊・独・仏・英の中から、2カ国語を含むこと。
- \*歌唱は暗譜で行うこととし、伴奏者は受験生が用意すること。
- \*実技試験の演奏順は、受験曲目提出用紙に記入した順とする。
- \*前奏、間奏、後奏は省略することも可。ただし、カット箇所を記入の上、受験曲目の楽譜を出願時に提出すること。

#### 【録画撮影に関する特記事項】

- \*全曲を通して演奏し、録画すること。
- \*一切の編集は行わないこと。途中で録画が中断しないこと。  
編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- \*カメラアングルについて
  - ・顔が確認できるように上半身または全身が画面に映るように撮影すること。
  - ・暗譜での演奏のため、楽譜や譜面台がないことが確認できること。

#### 【伴奏(者)について】

- \*録画撮影の際、伴奏者の映り込みの是非は問わないが、映り込む場合は入試で使用することについての許諾を得ておくこと。

### ピアノ専修

### 試 験 曲 等

- A. J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethovenのソナタより1曲（全楽章）  
B. 上記で選択した作曲家以外の、任意のピアノ独奏用作品（複数曲でも可）

- \*A、B両方の演奏合計時間が30分以上。
- \*Bの作品は、出版されている作品に限る。内部奏法を指示した作品は除く。
- \*A、Bの順に演奏すること。
- \*演奏は暗譜であること。
- \*繰り返しは自由とする。

#### 【録画撮影に関する特記事項】

- \*課題曲の変更はなし。
- \*課題曲はA、Bの順に全曲を通して演奏し、録画すること。
- \*曲中、曲間の編集は行わないこと。編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- \*グランドピアノ、もしくはアップライトピアノでの演奏とすること（電子ピアノは不可）。
- \*カメラアングルについて
  - ・録画は、必ず演奏者の手元、横顔、ペダル操作が映るように設定すること。
  - ・暗譜で演奏していることが確認できるようにすること。
  - ・カメラは固定位置に設定し、ズーム等は行わない。



以下により任意の1曲を選択し、全楽章を演奏すること。  
カデンツァがある曲については任意のカデンツァを含む。  
ピアノ伴奏つき。暗譜で演奏すること。  
伴奏者については受験生が用意すること。  
\*前奏、間奏、後奏等のピアノ伴奏部分のカットは任意とする。

**【録画撮影に関する特記事項】**

- \*全曲、全楽章を通して演奏し、録画すること。
- \*一切の編集は行わないこと。楽章間であっても途中で録画が中断しないこと。  
編集が確認された場合は、不正行為とみなすことがある。
- \*カメラアングルについて
  - ・ヴァイオリン、ヴィオラは、左手ならびに演奏時の右手が画面に映るように撮影すること。  
また、全身又は上半身(演奏中の左手、右腕を含む)が必ず映っていること。
  - ・チェロ、コントラバスの録画撮影のアングルについては以下を参考にすること。  
《高さ》カメラは肩の高さ、《場所》ほぼ中央  
必要とされる撮影箇所：《向かって左側》弓先での右手、《上》頭(コントラバスは楽器の頭)、《下》f字孔
  - ・管楽器は、全身もしくは上半身が必ず映っていること。
  - ・打楽器は、上半身及び手元が必ず映っていること。
  - ・楽譜や譜面台がないことが確認できること。

**【伴奏(者)について】**

- \*録画撮影の際、伴奏者の映り込みの是非は問わないが、映り込む場合は入試で使用することについての許諾を得ておくこと。
- \*原則として、伴奏による演奏(録画撮影)とするが、諸事情により用意ができない場合は無伴奏での演奏(録画撮影)も可とする。その場合、評価に影響はない。

## &lt;ヴァイオリン&gt;

1. F. Mendelssohn : ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
2. P. I. Tchaikovsky : ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

## &lt;ヴィオラ&gt;

1. F. A. Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲 ニ長調
2. C. P. Stamitz : ヴィオラ協奏曲 第1番 ニ長調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

## &lt;チェロ&gt;

1. A. Dvořak : チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
2. E. Lalo : チェロ協奏曲 ニ短調
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

## &lt;コントラバス&gt;

1. D. Dragonetti : コントラバス協奏曲 イ長調
2. S. Koussevitzky : コントラバス協奏曲 嬰へ短調 作品3
3. 上記1. 2. の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

## &lt;フルート&gt;

1. W. A. Mozart : フルード協奏曲 第2番 ニ長調 K. 314 (285d)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<オーボエ>

1. W. A. Mozart : オーボエ協奏曲 ハ長調 K. 314 (285d)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<クラリネット>

1. W. A. Mozart : クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ファゴット>

1. W. A. Mozart : ファゴット協奏曲 変ロ長調 K. 191 (186e)
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<サクソフーン>

1. J. Ibert : アルトサクソフーン室内小協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<ホルン>

1. R. Strauss : ホルン協奏曲第1番 変ホ長調 作品11
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トランペット>

1. J. Haydn : トランペット協奏曲 変ホ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<トロンボーン>

1. F. David : トロンボーン協奏曲 変ロ長調
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<バストロンボーン>

1. V. Nelhybel : バストロンボーン協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<テューバ>

1. R. Vaughan Williams : テューバ協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<打楽器>

1. A. Jolivet : 打楽器協奏曲
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

<マリンバ>

1. A. Koppel : マリンバ協奏曲第1番
2. 上記の協奏曲と同程度以上の任意の協奏曲

## 音楽学専攻

<b>音楽学専修</b>
口述試験 研究計画書に関するオンラインによる口述試験
<b>*研究計画書の提出</b> 本学所定の様式（綴じ込み用紙）に記入すること。 氏名を明記して提出すること。 口述試験の際に、提出した研究計画書の控えを手元に用意すること。また、場合により画面共有することがある。

<b>作曲専修</b>
口述試験 提出作品、作曲理論の学習歴および研究計画に関するオンラインによる口述試験
<b>*作曲作品の提出</b> 楽譜3点以内とし、出願時に製本せず（順番通りにクリップ留め）表紙に曲の題名と氏名を明記して提出すること。 なお、口述試験の際に、提出した楽譜の控えを手元に用意すること。また、場合により画面共有することがある。

## VI 受験上の注意

- 1 試験に関する諸事項は、全て本学ホームページ(<http://www.okigei.ac.jp/>)に掲示するので、常に注意して閲覧すること。
- 2 受験生にはパソコン、スマートフォン、タブレット等の通信機器と、インターネット回線に接続できる通信環境を用意し、試験時には個室に1人で対応できる環境を整えることを求める。なお、事前に接続テストを行うので、その際も同じ環境で行うこと。
- 3 試験に使用できる通信機器は1台とし（緊急時を除く）、試験中は電源に接続するか、事前に充電を行い、試験中に電源が切れることのないようにすること。
- 4 受験者は、指定時刻にオンラインに接続できるよう待機すること。なお、試験当日は、余裕を持って待機すること。
- 5 試験中の録画・録音は禁止する。
- 6 通信機器が接続不可能となった場合は大学(098-882-5080)と連絡をとり、対応を相談すること。
- 7 試験中に不正行為が発覚した場合は、失格とする。また、試験の実施後に不正行為が発覚した場合についても、失格または合格取消とする。
- 8 試験当日は、「本学受験票」を必ず携帯すること。
- 9 指定時刻に遅れた者は、原則として受験を許可しない。ただし、やむを得ない事情（公的事情）により遅刻した場合は、ただちに大学(098-882-5080)に申し出ること。
- 10 試験時間中は、監督者の指示に従うこと。
- 11 試験の内容に関する質問には、一切答えない。

## VII 出願手続き

- 1 出願期間 令和3年9月17日（金）から同9月24日（金）まで  
\*出願はすべて郵送（書留）によるものとする。  
\*発信局消印が上記の期間内のものを有効とする。
- 2 出願方法  
本入学試験はオンライン出願で行う。大学ホームページからオンライン出願ページに進み出願手続を行うこと。  
オンライン出願が困難な場合に限り、本学ホームページに記載してある要項をダウンロードし、記載の上本学へ送付することを認める。

オンライン出願の際は、下記書類を郵送（書留郵便で速達）する必要があり、その提出までが出願手続となるので留意すること。書類の提出は出願期間最終日の消印があるものに限り受理する。

\*出願手続きについては「オンライン出願サイト」の注意事項を参照のこと。  
 オンライン出願サイト(URL : <http://www.okigei.ac.jp/examination/application-online.html>)

### 3 出願書類等

書 類	様式・書式	記 入 要 領 等
①入学願書・ 受験票・写真票	本学所定の様式	オンライン出願ページから入学志願票を印刷し提出すること。 氏名は戸籍に記入されている文字を楷書で正しく記入すること。 日本国籍以外の者は在留資格を記載すること。現住所は、願書記入時の住所でよい。 (以下の書類も同様に) 受験票・写真票には上半身、無帽、正面、出願前3ヶ月以内に撮影したカラー写真データを用意すること。 現住所欄の空白部分にメールアドレスを記入すること。
②受験曲目提出用紙	本学所定の様式	オンライン出願ページから受験曲目提出用紙を印刷し必要事項を記入すること。詳細は提出用紙の注記を参照のこと。
③履歴書	本学所定の様式	オンライン出願ページから履歴書を印刷し必要事項を記入すること。音楽歴と業績欄には師事した教師、出演した演奏会、受賞歴、発表論文名、作品名等を記す。
④入学考査料領収書 ・領収書原符	本学所定の様式	ア 入学考査料(30,000円)の納入方法は、オンライン出願ページの指示に従い、 <b>令和3年9月24日(金)までに</b> 納付すること。 (クレジットカード、コンビニ支払い、ペイジー(Psy-easy)、郵便為替証書の郵送が可能)。 イ クレジットカード、コンビニ支払、ペイジー(Psy-easy)の場合は、別途手数料がかかるため留意すること。 ウ 郵便為替の場合、普通為替証書の指定受取人欄、払渡局欄等は <b>一切記入しないこと。</b> エ 入学考査料領収書・領収書原符の郵便為替で納付する場合のみ送付のこと。その場合、「領収書・領収書原符」の納入義務者欄に住所・氏名を記入し、 <b>普通為替証書と一緒に提出すること。</b>
⑤卒業証明書又は卒業見込証明書 (大学又は最終学校)	様式随意	出身大学長が証明したもの(原本)を提出すること。 本学の卒業生及び卒業見込者は不要 日本国以外で書かれた書類には、必ず日本語訳を添付すること。
⑥成績証明書	様式随意	出身大学長が証明したもの(原本)を提出すること。 本学の卒業生及び卒業見込者は不要 日本国以外で書かれた書類には、必ず日本語訳を添付すること。
⑦その他の書類 (住民票抄本)	様式随意	県内居住者は入学料の額が軽減されるので、 <b>令和3年4月1日以前から県内に住所を有することを証明する本人か配偶者、又は一親等親族の住民票抄本を必ず提出すること。</b>
⑧研究計画書 (音楽学専修受験者のみ)	本学所定の様式	オンライン出願ページから研究計画書を印刷し必要事項を記入すること。詳細は提出用紙の注記を参照のこと。 (提出された研究計画書は返却しない。)
⑨作曲作品 (作曲専修受験者のみ)	様式随意	提出は3点以内とし、製本をせずに、クリップ等でまとめておくこと。
⑩受験曲楽譜 (声楽専修受験者のみ)	様式随意	受験曲目の楽譜提出。(カットのある場合はその箇所を明記する。) (提出された楽譜は返却しない。)

⑪録画物 (舞台芸術専攻及び 演奏芸術専攻受験生 のみ)		課題の録画物を提出すること。 なお、録画方法等は p. 3 を参照すること。
---------------------------------------	--	---

「オンライン出願サイト(URL: <http://www.okigei.ac.jp/examination/application-online.html>)」のページより上記①～⑦までの書類(⑦は要提出者のみ)を印刷し、必要事項を記載の上、その他の必要書類とともに本研究科に郵送すること。なお、⑧～⑩は出願期間内、⑪は10月15日(金)消印有効で同提出先に願書等出願書類と別便で速達書留による郵送のこと。

\*願書等の受理後はいかなる事情があっても書類の変更、審査料の払戻はしない。

4 入学願書等提出先 沖縄県立芸術大学教務学生課  
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 TEL 098-882-5080

5 受験票について

受験票は、出願書類受理後に「オンライン出願サイト」ページからダウンロードできるようになるので各自で印刷し、試験当日に用意すること。

## VIII 合格発表

令和3年10月26日(火) 午前10時予定 本学ホームページ

\*合格者には発表と同時に文書で通知し、入学手続きについても指示する。

\*電話での問い合わせには一切応じない。

\*入学手続き終了後、入学定員に欠員が生じた場合には、11月9日(火)以降に「追加合格者の決定」を行い本人に直接連絡(電話等)するので、11月9日(火)から11月12日(金)までの間、確実に連絡できるようにしておくこと。(連絡は大学側から行い、受験者からの問い合わせには応じない。)

\*募集人数に達しない専攻があった場合は、欠員補充二次募集を行うことがある。

## IX 入学手続き

期 間：令和3年10月28日(木)～11月4日(木) 入学手続き書類等は郵送にて提出すること。  
※11月4日(木)の郵送発信消印有効

送付先：本学教務学生課

納付金の納入：

入学料 県内居住者 282,000円、その他の者 512,000円  
納入期間 令和3年10月28日(木)から11月4日(木)まで

授業料 前期分 267,900円(年額535,800円)  
納入期間 令和4年4月1日(金)から4月30日(土)まで

※ 納入期限が、土・日曜日又は国民の祝日にあたる場合は、その翌日までに納入すること。また、授業料等の改正が行われた場合には、改正後の授業料が適用される予定である。

※ 長期履修学生制度の詳細については大学ホームページを確認すること。

県内居住者とは、各号のいずれかに該当する者をいう。(住民票による証明が必要です)

(1) 入学の日(4月1日)の1年以前から引き続き県内に住所を有する者

(2) 入学の日(4月1日)の1年以前から引き続き県内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者

\*入学料及び授業料の減免について

原則として大学の学業成績の平均が2.0(良)以上の者で、かつ、次の各号の一に該当する者を対象に、全額免除又は2分の1減額の可否を審査し決定する。

1 天災その他不慮の災害により、学費の負担に堪えられなくなった者

- 2 生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者と同一世帯にある者
- 3 前項のほか、特別の事情により学費の納付が著しく困難な者

## X 過去の試験問題の公表

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、過去3年間の入学試験問題（語学・基礎能力）を本学ホームページで公表している。詳細は、本学教務学生課に問い合わせること。

## XI 入試情報の開示について

沖縄県個人情報保護条例に基づき、一般入試の結果については、口頭により受験者本人が自己の入試結果の開示を請求することができる。

- (1) 開示内容 当該年度の受験科目の総点及び専門試験の得点を所定の様式により開示する。
- (2) 開示請求できる期間  
**令和3年11月15日（月）から令和3年12月14日（火）まで（9時から17時まで）**  
但し、土・日、祝日等休業となる日は除く
- (3) 開示請求の受付を行う場所  
**本学教務学生課**
- (4) 開示の方法  
本人部分のみ閲覧
- (5) 開示請求に必要な書類  
**受験票のほか、運転免許証、旅券その他官公署の発行する証明書等の一つを持参すること。**
- (6) 開示請求  
受験者本人が、口頭で本学教務学生課に申し出ること。
- (7) その他  
電話による問い合わせには応じない。また、県内離島あるいは県外在住者で来学が困難な者は、沖縄県個人情報保護条例に基づく手続きが必要となる。  
手続き方法については、沖縄県の本学ホームページを参照すること。

## XII 外国人志願者に対する特別措置

外国人で入学を志願する者は、本要項に定める事項のほか、以下の定めによる。

### ◆出願資格

本学大学院の授業を理解でき、日本語による論文等を書く能力を有すること。

### ◆出願手続き

1 願書受付 令和3年（2021年）7月1日（木）から同年9月24日（金）まで

2 出願書類

本要項に定める書類（P.10、P.11に記載）のほか、以下の書類等を提出しなければならない。

- (1) 日本語の能力を証明する書類（日本語教育機関または日本語教育のコースを有する教育機関の長または担当教員が作成したもの。様式は自由。）
- (2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類
- (3) 旅券の写し、又は在留カード（もしくは外国人登録証明書）の表裏両面の写し

3 入学手続き

入学手続きの際に、住民票の写し（または住民票記載事項証明書）もしくは、在留カードの表裏両面の写し（または外国人登録証明書）を提出すること。

※日本入国の査証申請及び在留資格の取得手続きは、入学手続きとは別に、入学希望者が本人の責任で行うこと。

外国人志願者に対する特別措置について、不明な点は教務学生課に問い合わせること。

TEL 098-882-5080 FAX 098-882-5033 教務学生課 E-mail kyomu@okigei.ac.jp

## 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科外国人学生規程

第1条 沖縄県立芸術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第56条による外国人学生のうち音楽芸術研究科（以下「研究科」という。）に属する者の取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 この規程で「外国人学生」とは、国、地方公共団体若しくは他の教育機関から委託された外国人又は本大学院において教育を受ける目的で入学し、本大学院に入学を許可された外国人をいう。

第3条 外国人学生は、研究科における教授及び研究に支障のない場合に限り選考のうえ入学を許可する。

2 研究室（音楽芸術研究科履修規程に定める研究室をいう。）一室あたり外国人学生は、原則として一人以内とする。

第4条 外国人学生の総数は、若干名とする。

2 外国人学生の修業年限は、2年とする。ただし、4年を越えることができない。

3 外国人学生の入学の時期は、年度の始めとする。

4 外国人学生の入学志願資格は、次の2つの条件を満たした者とする。

(1) 学習に足る日本語の理解と表現能力を有する者

(2) 大学院学則第9条（入学資格）に定める者

5 外国人学生の入学選考は、実技又は学科及び面接の入学試験によるものとする。

6 外国人学生として入学を志願する者は、学生募集要項に定めるもののほか、次の書類を提出しなければならない。

(1) 日本語の能力を証明する書類

(2) 学費・生活費の負担能力を証明する書類

(3) 旅券の写し又は在留カード（旧外国人登録法に規定する外国人登録証明書を含む。）両面の写し

(4) その他本研究科が必要と認める書類

第5条 外国人学生が修士課程を修了したときは、学位を授与する。

第6条 外国人学生の授業料、入学検査料及び入学料の額は、沖縄県立芸術大学授業料等の徴収に関する規程（沖芸大規程令和3年4月1日年第36号）に定める額とする。

第7条 この規程に定めるもののほか、大学院学則を準用し、外国人学生に問題が生じたときは大学院運営委員会において協議する。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## ■ 大学院案内 ■

### 建学の理念

- (1) 日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。
- (2) 県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸、音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。
- (3) 我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がり追究し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

## 教育理念・目標

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民俗音楽学等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門指導者となり得る人材の育成を図ります。

### ■ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

- 1 専門分野における高度な技術力を身につけている。
- 2 研究分野における高度な研究能力と論理的思考力を身につけている。
- 3 研究分野における知識、技術を言語化、理論化し、社会に発信する能力を身につけている。

### ■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、講義、演習、実技を組み合わせた授業科目を開講し、修士演奏・作品（副論文含む）並びに修士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、履修表及びカリキュラムマップにより、体系的や各科目間の関係性を示します。

- 1 研究計画に基づいた研究指導により、専門分野における精緻な技術を身につけます。また、関連科目の履修によって広い視野に立った学識を涵養します。
- 2 課題探求や洞察に必要な、論理的思考力やコミュニケーションスキル、情報リテラシーなど、研究に必要な基礎的素養を養います。
- 3 各専攻分野で獲得した能力を応用し、高度の専門性が求められる各分野の職業を担い得る卓越した能力を培います。

### ■アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴やそれらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追求する音楽構造学および民族音楽等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を持ち、想像力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています

- 1 幅広い教養と音楽芸術分野の専門的素養を備えているか。
- 2 専門分野の研究を行うのに必要な基礎的能力を備えているか。
- 3 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。



## ■舞台芸術専攻

舞台芸術専攻には、琉球古典音楽、琉球箏曲の実技修得をめざす琉球古典音楽専修と、琉球舞踊、組踊の実技修得をめざす琉球舞踊組踊専修とがあり、高度な技芸を有する演奏者あるいは演技者、また、その指導者および古典芸能を基礎とした新たな芸能の創造者などの人材育成をめざします。

### 1 琉球古典音楽専修

琉球古典音楽専修では、入学者には主な古典曲、舞踊曲を独演できる技量が求められます。

カリキュラムは琉球古典音楽の大昔節等の習得を中心とし、組踊、舞踊地謡の高度な技芸を習得します。また、伝統音楽を理論的に把握することにより、より深い理解に基づいた将来の実演家または指導者としての資質を身につけます。さらに創作演習を通して新たな伝統音楽の創造者としての技法を習得します。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏には大昔節の独唱、舞踊または組踊の地謡、創作などが課せられ、演奏の理解を深めるために副論文の提出も求められます。

### 2 琉球舞踊組踊専修

琉球舞踊組踊専修では、入学者には代表的な古典舞踊や雑踊、または組踊の基本的な役柄の演技と唱えをすでに習得していることが求められます。

カリキュラムは、琉球舞踊研究室では古典舞踊の代表的な女踊り、二才踊りなどの技量を高め、組踊研究室では主要な組踊の演目を通して役柄に応じた唱え、演技の習得を中心に組まれています。

また、舞踊論、楽劇論などの理論研究を通して古典芸能の理解を深め、さらに創作能力を身につけます。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位修得とします。修士演奏は、琉球舞踊研究室では、古典女踊りや二才踊り、そして雑踊りまたは創作が課せられます。また組踊研究室では組踊一番や語り組踊、そして創作または復曲などが課せられます。その他に、いずれも演技の理解を深めるために副論文の提出も求められます。

舞台芸術専攻 琉球古典音楽専修

履修区分	授業科目名
必修科目	琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ 課題演習
選択必修科目	創作演習 琉球音楽論研究 琉球楽劇論研究 論文作成法
選択科目	舞台制作研究 能楽研究 日本音楽史研究 民俗芸能論研究 アートマネジメント演習 民族音楽学研究
自由科目	声楽実技演習 器楽実技演習 学部開設科目

舞台芸術専攻 琉球舞踊組踊専修

履修区分	授業科目名
必修科目	琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ 課題演習
選択必修科目	舞踊組踊創作演習 琉球舞踊論研究 琉球楽劇論研究 論文作成法
選択科目	舞台制作研究 能楽研究 民俗芸能論研究 アートマネジメント演習 民族舞踊学研究
自由科目	声楽実技演習 器楽実技演習 学部開設科目

## ■演奏芸術専攻

演奏芸術専攻は、学部で培った基礎の上に、声楽・器楽の専門分野の高度な技術を修得し、演奏芸術を多方面から総合的に研究することで、広く国際的に活躍しうる音楽家や、社会に貢献できる人材育成を目指しています。演奏芸術専攻は、声楽、ピアノ、管弦打楽の3つの専修から成っています。

### 1 声楽専修

声楽専修は学部で声楽の基礎を学んだ者が、さらに声楽技術を磨き、舞台上で表現することをめざして研鑽するところであり、声楽を研究するために必要な総合能力と、目的意識、強い意欲が求められます。

学生はカリキュラムを通し、学部で培った教養と専門基礎の上に、幅広い学識を深め、自分の声と表現の特質を把握し、レパートリーの確立を目指します。

将来、コンサート歌手としてリサイタルを開催するのに必要な演奏技術と表現を学び、またオペラ歌手としては、一つの役を通し歌い演ずる技術と表現能力に舞台制作に関する実践を加えた、オペラの総合的な力を身につけます。

その成果は一般公開される演奏会で問われます。特に必修科目に設定されている協奏曲研究では、大学のオーケストラとの共演実践を行い、レパートリーを広げると同時に各々の研究を深める機会としています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は40分以上のリサイタル形式でおこなわれ、声楽家としての歌唱能力や表現力が審査され、併せて各自の研究テーマに即した副論文の提出も求められます。

### 演奏芸術専攻（声楽専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ 協奏曲研究 オペラ総合実習A-I オペラ総合実習A-II 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	声楽特殊研究A 声楽特殊研究B アートマネジメント演習 舞台制作研究 コンピュータ音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

## 2 ピアノ専修

ピアノ専修は、学部で培った演奏技術を基に演奏実践を重ね、さらなる専門実技の総合的技量を高めるために根気強く研鑽を積んで行こうとする人材を求めています。又、音楽を通して忍耐力のある人間を育成することも目標としています。

入学試験では、古典派ピアノ作品の基本的な演奏技術を見るために、ハイドン、モーツァルト又はベートーヴェンのピアノ・ソナタを、また幅広いレパートリーの拡充を目指すために任意の作品を選択し、合計 30 分以上になる演奏を課しています。

二年間のカリキュラムは専門実技の個人指導を中心に、協奏曲、室内楽、声楽伴奏などの実技系と、楽曲分析、西洋音楽史、音楽様式論等の理論系科目からなっています。ピアノ研究Ⅰ、協奏曲研究、室内楽実習は、全て一般公開される演奏会形式による試験で成果が問われます。特に必修科目に設定されている協奏曲研究では、大学のオーケストラとの共演実践を行い、レパートリーを広げると同時に各々の研究を深める機会としています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は 60～80 分のソロリサイタルとし、各自のテーマに基づき論理的にも追求した完成度の高い演奏を求めます。併せて修士演奏にした内容の副論文も課しています。

### 演奏芸術専攻（ピアノ専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	ピアノ研究Ⅰ ピアノ研究Ⅱ 協奏曲研究 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	ピアノ特殊研究 声楽曲伴奏法 室内楽実習Ⅰ アートマネジメント演習 コンピュータ音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

## 3 管弦打楽専修

管弦打楽専修は、学部で専門実技の基礎を学び、さらに高技術の研鑽を重ね総合的な芸術性を追求する強い意識を持った人材を求めています。

カリキュラムは専門実技の個人指導を中心に管弦打楽研究、オーケストラ研究、協奏曲研究、室内楽実習等、器楽奏者として不可欠な分野の実技科目が配置され、さらに西洋音楽史研究、楽曲分析研究、音楽様式論などの理論系科目が配置されています。協奏曲研究ではコンチェルトが必修となり、ソリストとして大学のオーケストラと協演する公開演奏試験を行っています。

修了の要件は、修士演奏の合格と単位取得とします。修士演奏は 45 分程度のリサイタルで、幅広い表現力を持つ音楽性、完成度の高い優れた技術力を兼ね備えた演奏能力が審査されます。また、演奏家の視点から各自の研究テーマを考察した副論文の提出も求められています。

### 演奏芸術専攻（管弦打楽専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	管弦打楽特殊研究 室内楽実習Ⅰ 室内楽実習Ⅱ コンピュータ音楽応用研究 アートマネジメント演習 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

## ■音楽学専攻

音楽学専攻には、学部における音楽、舞踊芸能の理論的研究および作曲研究を展開させてさらに高度な能力の獲得をめざすために音楽学専修、作曲専修が置かれ、研究者、作曲家または音楽、舞踊芸能分野において社会に資する人材の養成を目的とします。

### 1 音楽学専修

音楽学専修には、音楽史、民族音楽学、舞踊芸能論の3つの研究室があります。音楽史の研究室は、西洋、日本の音楽を対象に、歴史的、美学的、理論的研究をめざします。民族音楽学の研究室は、様々な文化における音楽の内部に存する論理（テキスト）とその背景となる歴史的、社会的環境（コンテクスト）の解明をめざします。舞踊芸能論の研究室では、舞踊芸能の歴史的、文化的、社会的研究をめざします。

入学時には、当該研究領域のみならず、隣接領域の基本的知識を備えていることが必要となります。

カリキュラムは、各分野の講義を通して専門的知識と自己の研究方法の獲得をめざします。さらに必修に原典講読を加え、隣接分野についての基礎的学習も重視します。また、民族音楽学と舞踊芸能論の研究室は、沖縄をはじめとす

履修区分	授業科目名
必修科目	演習Ⅰ 演習Ⅱ 原典講読
選択必修科目	民族音楽学研究 琉球音楽論研究 民族舞踊学研究 民俗芸能論研究 西洋音楽史研究 日本音楽史研究
選択科目	課題研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B 琉球楽劇論研究 琉球舞踊論研究 能楽研究 アートマネジメント演習 楽曲分析研究 コンピューター音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 他研究科開設科目
自由科目	学部開設科目 声楽実技演習 器楽実技演習

るアジア地域を対象とした研究を特色としています。

修了の要件は、単位取得と修士論文の合格です。修士論文の作成を通じて新たな知見と研究方法を確立することを目的としています。

### 2 作曲専修

作曲専修では、学部で培った音楽的基礎と作曲技術を基盤としてさらに作曲作品における習熟をはかり、その後の創作への確固とした方向付けを求めて一層の研鑽をめざします。したがって単に先人の手法を学ぶばかりでなく、創作的な意欲、より広い視野にたった自主的な研究姿勢が求められます。

カリキュラムでは、いわゆる現代音楽の幕開けまでの時代の西洋音楽の潮流を再検討しつつ、その後、現在にいたるまでの多様化、細分化された様々な作曲作品の表現を、楽曲分析、研究を通して講義、演習の形で学びます。それらに立脚したより広い視点から、独自の方向を個々の学生が見出せるよう、2年間の修業年月の中で任意の編成による修士作品を制作し、それを確認すべく実音にする試演の機会が与えられます。

修了の要件は、修士作品の合格と単位取得とします。修士作品は、独創性と表現の明確な意図と完成度が審査されます。また、芸術家の視点から各自の研究テーマを考察した副論文の提出が求められます。

### 音楽学専攻（作曲専修）

履修区分	授業科目名
必修科目	作曲実習Ⅰ 作曲実習Ⅱ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 課題演習
選択必修科目	西洋音楽史研究 楽曲分析研究 論文作成法
選択科目	専門関連実技演習 コンピューター音楽応用研究 楽曲構造特殊研究 音楽様式論 音楽学特殊研究A 音楽学特殊研究B
自由科目	学部開設科目

## ■専修免許状

教育職員免許法に定められた所定の単位を修得すれば、中学校教諭専修免許状(音楽)と高等学校教諭専修免許状(音楽)を取得することができます。ただし当該教科等の1種免許状を取得済みであること。

## ■学芸員資格

博物館学課程所定の単位を修得すれば、学芸員の資格を取得することができます。

## ■大学院研究室一覧■

(令和3年6月現在)

舞台芸術専攻	琉球古典音楽専修	琉球古典音楽研究室	仲嶺 伸吾 (安富祖流) 山内 昌也 (野村流) 新垣 俊道 (野村流) 宮里 秀明 (琉球箏曲)	教授* 教授* 准教授 非常勤講師	
	琉球舞踊組踊専修	組踊研究室	高嶺 久枝※1 阿嘉 修 眞境名 正憲	教授* (兼) 准教授 客員教授	
		琉球舞踊研究室	高嶺 久枝※1 比嘉 いずみ	教授* 准教授	
演奏芸術専攻	声乐専修	声乐研究室	片桐 仁美※2 五郎部 俊朗 山内 昌也 松田 奈緒美	教授* 教授* 准教授 准教授	
	ピアノ専修	ピアノ研究室	小杉 裕一 大城 英明 小沢 麻由子	教授* 准教授 准教授*	
	管弦打楽専修	弦楽研究室	岡田 光樹 (ヴァイオリン) 林 裕 (チェロ) 市坪 俊彦 (ヴィオラ) 吉田 秀 (コントラバス)	教授* 教授* 非常勤講師 非常勤講師	
			管打楽研究室	阿部 雅人 (ホルン) 澤村 康恵 (クラリネット) 倉橋 健 (トランペット) 屋比久 理夏 (打楽器) 荒川 洋 (フルート) 庄司 知史 (オーボエ) 大澤 昌生 (ファゴット) 大城 正司 (サクソフォーン) 吉川 武典 (トロンボーン) 池田 幸広 (チューバ)	教授* 教授* 准教授 准教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師
		音楽学専修		音楽史研究室	高瀬 澄子 (日本音楽史) 倉橋 玲子 (西洋音楽史) 向井 大策 (西洋音楽史)
			民族音楽学研究室	小西 潤子 (民族音楽学) 遠藤 美奈 (民族音楽学)	教授* 准教授
舞踊芸能論研究室	久万田 晋 (民俗芸能論) 呉屋 淳子 (民族舞踊学)		教授* 准教授		
音楽学専攻	作曲専修	作曲研究室	塚本 一実 土井 智恵子	教授* 准教授	

\*は指導教員

※1の教授は令和4年3月31日で退職の予定

※2の教授は令和5年3月31日で退職の予定

## ■ 沖縄県立芸術大学大学院長期履修規程 ■

(趣旨)

**第1条** この規程は、沖縄県立芸術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第24条の2の規定に基づいて、沖縄県立芸術大学大学院における長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）に関し、必要な事項を定める。

(対象者)

**第2条** 長期履修を希望することができる者は、本学大学院修士課程又は博士課程の第1年次に入学する者で、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 官公庁・企業等に在職している者や自ら事業を行っている者などフルタイムの有職者のほか、アルバイトやパートタイムに従事する者も含む。ただし、修学に支障を及ぼさない範囲でのアルバイトやパートタイムに従事する者は除外する。
- (2) 育児又は親族の介護等を行う必要のある者。ただし、修学に支障を及ぼさない範囲のものは除外する。
- (3) その他やむを得ない事情を有し、修業年限で修了することが困難な者。

(申請手続)

**第3条** 長期履修を希望する者は、各研究科の学生募集要項等で定める期間内に学長に対し、長期履修申請書（様式第1号）及びその他所定の書類を提出しなければならない。

(承認・不承認)

**第4条** 長期履修の承認及び不承認の決定については、研究科委員会の議を経て学長が行なう。  
**2** 学長は、前項の規定により長期履修の承認及び不承認を決定したときは、長期履修に関する通知書（様式第2号）により、通知するものとする。

(長期履修期間)

**第5条** 長期履修の期間は、修士課程は3年、博士課程は4年又は5年とする。

(履修期間短縮)

**第6条** 長期履修を承認された者（以下「長期履修学生」という。）が長期履修期間の短縮を希望する場合は、短縮された場合に修了を予定する年度の前年度の2月1日から2月末日までの間に、学長に長期履修期間短縮申請書（様式第3号）を提出する。

- 2** 長期履修期間の短縮期間は、年を単位とする。
- 3** 長期履修期間の短縮の承認は、研究科委員会の議を経て、申請のあった年度内に学長が行なう。
- 4** 学長は、前項の規定により長期履修期間の短縮を承認したときは、長期履修期間短縮承認書（様式第4号）により長期履修期間の短縮を承認された者に通知するものとする。

(履修)

**第7条** 長期履修学生は、履修計画及び研究計画に従い、計画的な履修を行わなければならない。

(授業料)

**第8条** 長期履修学生の授業料の年額は、別に定めるところによる。

(その他)

**第9条** この規程に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、学長が別に定める。

### 附 則

この規程は、令和元年8月5日から施行する。

### 附 則（令和3年3月25日改正）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

※受験番号

令和4年度 沖縄県立芸術大学大学院  
音楽芸術研究科(修士課程)願書

ふりがな		性別	男 ・ 女	志望 研究 分野	(専修)
氏名		生年 月日			
出身大学	大学 学部 学年(専攻) 年 月 卒業 卒業見込				
現住所	〒 TEL ( )				
合格通知 送付先	〒 TEL ( )				

※受験番号

志望する研究分野

専攻	専修	備考
		下記専修を志望する者には、該当する項目を○で囲み、( )内に記入すること
		琉球古典音楽専修 歌 三 線 ・ 琉球箏曲
		琉球舞踊組踊専修 琉球舞踊 ・ 組 踊
		声楽専修 声種 ( )
		管弦打楽専修 楽器 ( )
		音楽学専修 音楽史・民俗音楽学・舞踊芸能論

受験科目の選択 ~~——演奏芸術専攻、作曲専修を志望する者は、選択する科目を○で囲む(外国人受験生は記入しない)~~

語 学	英語 ・ 独語 ・ 仏語 ・ 伊語
-----	-------------------

- \* 氏名は戸籍に記入されているとおりの文字を正確に記入すること
- \* ※欄は記入しないこと
- \* 願書等の性別欄は統計のためにのみ使用する。性別については自認する性別を記載してよい。また、性別を記載しなくてもよい。

令和4年度 沖縄県立芸術大学大学院  
音楽芸術研究科(修士課程)入学試験受験票

(切り離さないこと)

※受験番号	
氏名	
志望研究分野	専修
<p>写 真</p> <p>出願前3ヶ月以内に撮影した縦4cm 横3cm(上半身、 無帽、正面向)の 写真をこの枠内に 貼り付けること</p>	

(切り離さないこと)

令和4年度 沖縄県立芸術大学大学院  
音楽芸術研究科(修士課程)入学試験写真票

(切り離さないこと)

※受験番号	
氏名	
志望研究分野	専修
<p>写 真</p> <p>出願前3ヶ月以内に撮影した縦4cm 横3cm(上半身、 無帽、正面向)の 写真をこの枠内に 貼り付けること</p>	

(切り離さないこと)



受験曲目提出用紙 (舞台芸術専攻琉球古典音楽専修)

受験番号・氏名	琉球古典音楽専修* 番 氏名
<del>立 方 氏 名</del>	
受験曲目 (選択する曲目に ○印をつける)	<b>【歌三線】</b> 1. および 2. の課題曲については当日演奏すべき曲を指定する。 3. 「総掛」「花風」  <b>【琉球箏曲】</b> 1. および 2. の課題曲については当日演奏すべき曲を指定する。 3. 「総掛」「花風」

\*受験番号は記入せず、記入に際してはP5の「試験内容・曲目等」を参照すること

------(切り取り線)-----

受験曲目提出用紙 (舞台芸術専攻琉球舞踊組踊専修)

受験番号・氏名	琉球舞踊組踊専修* 番 氏名
<del>地 謡 氏 名</del>	
受験曲目 (選択する曲目に ○印をつける)	<b>【琉球舞踊】</b> 1. の課題曲については当日1演目を指定する。 2. 「ぜい」「前の浜」「高平良万才」 3. 「むんじゅる」「花風」  <b>【組踊】</b> 1. については当日1演目を指定する。 2. 「伊野波節」「諸屯」 3. 「前の浜」「高平良万才」

\*受験番号は記入せず、記入に際してはP5の「試験内容・曲目等」を参照すること

受験曲目提出用紙 (演奏芸術専攻声楽専修)

受験番号・氏名	声楽専修* 番 氏名		
伴奏者 (いずれかに○を記入)	①受験生が同伴 伴奏者氏名		②大学が用意することを希望 ※遠隔地受験者のみ
受験曲目 (演奏順に記入)  (すべて原語で 記入すること)	1	作曲者	
		作品名	
		曲名	(約 分)
		調	
	2	作曲者	
		作品名	
		曲名	(約 分)
		調	
	3	作曲者	
		作品名	
		曲名	(約 分)
		調	
	4	作曲者	
		作品名	
		曲名	(約 分)
		調	

\* 受験番号は記入しないこと。

\* 1～4 は演奏順番号なので注意すること

\* 調は曲の開始部の調を記入し、アリアの曲名はインチピット (歌い出し) の歌詞とし、役名も記入すること

\* 各曲の演奏所用時間を記入すること

受験曲目提出用紙 (演奏芸術専攻ピアノ専修)

受験番号・氏名	ピアノ専修*		番	氏名
受験曲目 (すべて原語で 記入すること)	A	作曲者		
		作品名	(約 分)	
	B	作曲者		
		作品名	(約 分)	

\*受験番号は記入しないこと

\*A、BはP6の「試験内容・曲目等」を参照し、それに従うこと

\*Bで複数曲を演奏する場合は、それぞれの演奏所要時間を記入すること

------(切り取り線)-----

受験曲目提出用紙 (演奏芸術専攻管弦打楽専修)

受験番号・氏名	管弦打楽専修*		番	氏名
伴奏者氏名				
受験曲目 (すべて原語で 記入すること)	楽器名		<del>コントラバス受験生のみ (いずれかに○を記入)</del> ①コントラバスを受験生が用意する ②コントラバスを大学が用意する	
	作曲者			
	作品名	(約 分)		

\*受験番号は記入しないこと

\*作品の演奏所要時間を記入すること

# 研究計画書 (音楽学専攻音楽学専修)

	受験番号	
1. 研究科目		
2. 研究テーマの選択に至る経緯 この研究テーマを選んだ動機、このテーマに関するこれまでの学習の概要、参照した文献や調査した資料などについて、詳しく述べなさい。(卒業論文に基づいて述べても良い)		

注：ワープロで打った原稿を枠内に貼り付けても良い。

(続く)

# 研究計画書 (続き)

受験番号	
------	--

## 3. 学習と研究の計画

修士課程において、何について学習し、何をどのように研究したいか、目的と方法について、計画を述べなさい。

注：ワープロで打った原稿を枠内に貼り付けても良い。

文字数は裏表合計で、1200字～1500字

# 履 歴 書

学 歴 (高校卒業以降)	年 月	
職 歴	年 月	
音 楽 歴 お よ び 業 績	年 月	

\*音楽歴および業績の欄には、音楽・舞踊などに関して師事した教師、出演した演奏会、受賞歴、発表論文、発表作品などを記入する

以上の記載事項に相違ありません

令和 年 月 日

本人氏名

印

## 領 収 書

公立大学法人沖縄県立芸術大学

年 度	令和 3 年度	番 号								
納入者	様									
金 額				¥	3	0	0	0	0	円
(内容)										
<input type="checkbox"/> 入学審査料（音楽芸術研究科） 普通為替証書番号（ ）										
上記の金額を領収しました。 令和 年 月 日 公立大学法人沖縄県立芸術大学 出納責任者 <input type="checkbox"/> 印 (収納担当者 <input type="checkbox"/> 印)										
取扱部署	<input type="checkbox"/> 総務課 <input checked="" type="checkbox"/> 教務学生課 <input type="checkbox"/> その他（ ）									

切り離さない

## 領 収 書 原 符

公立大学法人沖縄県立芸術大学

年 度	令和 3 年度	番 号								
納入者	様									
金 額				¥	3	0	0	0	0	円
(内容)										
<input type="checkbox"/> 入学審査料（音楽芸術研究科） 普通為替証書番号（ ）										
上記の金額 令和 年 月 日 領収済印 令和 年 月 日 琉球銀行首里支店に入金済印										
取扱部署	<input type="checkbox"/> 総務課 <input checked="" type="checkbox"/> 教務学生課 <input type="checkbox"/> その他（ ）									

速達

9 0 3 8 6 0 2

書留郵便及び  
速達料金の  
切手を貼り  
付けること

沖縄県那覇市首里当蔵町一丁目四

沖縄県立芸術大学事務局

教務学生課  
行

書  
留

書留引受番号

差 出 人	志望専攻	専攻	専修
	住 所	〒 (電話)	( 方)
	氏 名		



次の書類を順序どおりにクリップでとめ、この封筒に入れること。

順序	出 願 書 類
1	入学願書・写真票
2	受験曲目提出用紙
3	履 歴 書
4	領収書・領収書原符
5	卒業証明書（要提出者のみ）
6	成績証明書
7	入学考査料（必ず郵便局の発行する普通為替証書）
8	その他の書類（要提出者のみ）